

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・通信販売の高額商品の販売量が増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月前半は客の買い控えがあったが、後半になると正月用の食材を求める客が増え、売上も少し上がった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・急激な気温の冷え込みで冬物衣料品が順調に推移している。12月も先月に引き続き好調な売上が続いている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・クリスマス、正月商戦で、販売量が増加する。それに加え、メディアに露出したこともあり、来客数が増加している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・月初めは本当に悪かったが、後半で正月用品の予約を含めて昨年並みの売上になっている。
		百貨店（売場主任）	それ以外	・総選挙の結果に反応し、円安傾向が進み、平均株価が1万円台を超えた。政権が交代し、経済が良い方向に向かう。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・お歳暮、クリスマスプレゼント共に、直前に購入する客が大半となり、事前予測がつきにくかった。しかし、直前は大きな盛り上がりで、数量、金額共に前年実績を確保した。値頃感のある商品への客の反応は良く、商品単価を下げながら、数量を伸ばしている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・クリスマスギフトやお歳暮ギフト等の売上が前年比を若干上回っている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・福岡都市圏は消費が回復しているが、北九州地区は製造業の割合が多く、販売量が全体的に回復していない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・年末にかけて、来客数、販売量共に増えており、忙しい。
		衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・12月後半よりセール商材が好調に売れている。昨年に比べると商品の在庫も確保しており、売上につながっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年に比べると若干持ち直している。地上デジタル放送の開始やエコポイントの終了などの様々な要素が加わり、落ち込んでいた需要が、少しではあるが上向きつつある。
		家電量販店（従業員）	来客数の動き	・年末年始で来客数が増えている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比約105%と微増の状態にある。それに伴って売上も若干増えている。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	お客様の様子	・隣のビルへの連絡デッキが全通し、客の流れが良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・12月上旬までは動きが悪く、販売量も少なかった。ただボーナス支給後の中旬以降は勢いがつき、昨年の売上を上回っている。
		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・総選挙の影響があり、一部の旅行需要は縮小したものの、年末年始の旅行について予約が昨年より伸びている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・先月あたりから日中の予約客の動きが大変良く、忙しくなった。また、今月は夜の繁華街の動きが大変好調で、売上も2割位アップした。
		通信会社（総務局）	販売量の動き	・相変わらず安価プランにシフトする傾向にあるが、新規契約は前年比プラスとなっている。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・個人住宅の設計は落ち込んでいるが、官公庁工事の設計が出ているので、そういう意味では当事務所以外の業者も良い。
住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込みは、今のところ、そこまで感じられないという住宅関係の同業者の話もあるが、来客数は結構増えてきているので、住宅業界はやや上向きである。		
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前の売上ペースと変わらない。12月の売上は、初旬から中旬にかけて好調であったが、下旬に入り伸び悩んでいる。郊外大型店3店舗に客足が集中していることが要因である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・景気が上向きか、下向きかという判断はできず、あまり変化を感じない。

一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・年末だというのに売上が伸びない。お歳暮需要も年々減っている。前年と比較しても売上は減少し、客は大型店舗での値下げ商戦でついで買いをしている。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年比96%と低調となっており、この傾向は数か月前から続いている。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来店促進策として、クリスマスや店頭特商、クレジット催事を行った。また寒波の訪れもあり、冬物衣料は動きをみせたが、もう一点の買い増しが少なかった。また、友の会金券での購入、クレジット払いは伸びたが、全店の売上を押し上げる勢いはなかった。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・12月は非常に厳しい状況である。総選挙があったことも含めて、消費には多少のブレーキがかかっている。ただ、総選挙以降もマーケットは盛り上がり欠けている。ファッション衣料等はクリアランス待ちの状況である。ただ総選挙前に前倒しで売上が上がっており、12月は数字でみれば少し上向きである。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・今年は早くからの冷え込みがあり、一部報道では防寒用品が好調とされているが、前倒しになっている部分が多く、本来売れていた時期に売上が落ちている状況もある。冬物商戦が終わってみないと景気の良し悪しは分からない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・季節要因や気温要因、あるいは販売促進策の強弱、そういったもので売上は良かったり、悪かったりする。
スーパー（店長）	お客様の様子	・天候の影響で野菜の価格が高くなっており、高いなら買い控えるという購買行動には変化がない。価格による販売量の変化が顕著であり、今後の予測も厳しい。
スーパー（店長）	お客様の様子	・今月に入って価格を多少抑えたこともあり、来客数は回復傾向にある。一方で客単価は依然として厳しい状況にある。競合店も販売促進策を強化しており、厳しい状況が続いている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・前月に続き、来客数は大きく変化しておらず、購買点数も大きな変化はなく、横ばいである。来客数は多少増加しているが、低価格での販売路線を堅持しているため、売上の増加は期待できない。
スーパー（業務担当）	来客数の動き	・客の動向、来客数について先月と比較しても大きな変化はない。年末需要の高い商品の動向をみても例年と概ね変わらない動きをしている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・大半の店が前年に比べて来客数が下回っている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・年末商材のおせち、クリスマスケーキについては販売量が伸びているが、ワンランク下の買い求めが多く、客単価は低い。売上は少し伸びたが、買上単価が昨年より若干伸び悩んだ。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・商店街の工事が終了して年末商戦に入ったが、長期にわたった工事期間のため客の来店がほとんどない。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・客の来店は前年並みであるが、フリー客の来店が減っている。衣料品等の買物で回遊している客をあまり見かけない。決まった店で必要な物だけを買っている。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・今年の冬は寒さに非常に助けられたところもあり、単価の高い物が動いた。3か月前の9月に比べると1品当たりの単価が上がっている。ただし、例年の12月に比べると特に多くなったという気配もなく、必要な物を必要な時だけ買うという傾向が完全に定着している。
家電量販店（企画・IR担当）	販売量の動き	・洗濯機、冷蔵庫等の白物商品や季節商材が伸びているものの、テレビやDVDレコーダーの販売が依然として回復しない。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・冬の寒さが一気に到来し、灯油の販売が好調である。小売価格は昨年とほぼ同価格なので、今後、順調な販売が見込める。来店する客の様子をうかがうと、冬の賞与支給が芳しくないとの声をよく耳にする。
その他小売の動向を把握できる者 〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・気温低下でアパレル等の動きに期待したが、動きが鈍い。また高額商材の動きも悪い。

その他小売 〔ショッピング センター〕（広 報担当）	来客数の動き	・客の価格に対する意識は相変わらずで、低価格志向は根付いている。不要不急の物は購入しない。客単価及び1品単価は継続して前年を割っている。	
高級レストラン （支配人）	来客数の動き	・3か月前と並行して来客数が減少している。	
観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・宿泊者数、レストラン利用客数は前年を上回っている。総選挙の影響で宴会需要は落ちるかと思っただが、あまり影響はなかった。定価4万円のおせち料理も11月に予約を開始したが、11月中に完売している。一方で、披露宴が前年を下回る。	
都市型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・9、10月と同じように団体、あるいはイベント、学会等に関連した事業が多かった。	
旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・総選挙の影響もあるが、12月に入ってから予約が鈍い。年末年始の間際予約も低調である。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今日は昼のタクシー利用が少なく、夜は忘年会利用があったが、昨年と比べると悪い。	
タクシー運転手	お客様の様子	・例年であれば12月は他の月より若干人の流れもあり、売上も増えるが、今年は総選挙があり、ほとんど人が流れない状態となっている。売上は3か月前とほぼ変わらない。	
通信会社（管理 担当）	それ以外	・債権回収がうまくいっていない。	
通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・販売促進を実施したが、思っていたほどの反応が得られず、販売量が伸びない。	
通信会社（業務 担当）	販売量の動き	・スマートフォンを中心とした携帯販売は、週末に集中して売上台数が上向く傾向が続いている。ただ平日の販売台数は少なく、全体の販売台数としては例年より悪い。スマートフォン関連のアクセサリ商品や関連ソフトの売上アップでもカバーできない状況が続いている。	
ゴルフ場（従業 員）	単価の動き	・近隣のゴルフ場で値引き合戦が増えており、どこまで値引きをしないと客を呼べないかというような供給過多の状態があり、苦戦している。そのなかで県外客が若干増えつつあるということが少しは明るい材料である。地元の客を取り入れるには単価を下げるしかない。	
美容室（経営 者）	販売量の動き	・2、3か月前と比べると状況ではなく、ずっと低迷している。総選挙後の動きが大企業や輸出関連はいくらか良くなってくるが、一般企業や小売業、最終消費者までの活力が出てきていないので、このまま低い水準で推移する。中小企業の景気回復のテコ入れが必要だ。	
美容室（店長）	来客数の動き	・今日は1年で一番忙しい月であり、3か月に比べると景気は良くなっているようにみえるが、それほど良くない。	
その他サービスの 動向を把握で きる者〔介護 サービス〕（管 理担当）	来客数の動き	・入院等による利用キャンセルが増加し、客の減少につながっている。	
音楽教室（管理 担当）	来客数の動き	・今の時期は生徒の動きがない。	
住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・不動産業のマンション、住宅の土地の分譲関係は、値段的に相応な物が売れている。立地が良くても、利益率を抑える必要がある。マンション関係は供給過剰に加え、更に大型のマンションが着手しており、売れていない状況がみられ、景気は良くない。	
やや悪く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・買物が必要最低限に抑えられている。高価格帯の商品が売れない。
	商店街（代表 者）	販売量の動き	・最近の客の動向をみると、買物状況は3か月前や3か月後で判断するのが非常に難しくなっている。先月は割と良かったが、今日は極端に落ち込むというような消費行動がみられる。今日は先月に比べて非常に悪い。
	一般小売店〔青 果〕（店長）	それ以外	・寒気団の影響で地場野菜のレタスやニラ、ハウス栽培のトマト、ピーマン、きゅうり等の生産量が減少している。県外からの引き合いがかなり多く、価格は昨年の1.5～2倍程度になっている。単価が上がった割には利益率が悪い状況が12月に入ってみられた。

百貨店（総務担当）	販売量の動き	・総選挙の影響が大きく、飲食業を中心に非常に厳しい売上となっている。	
百貨店（企画）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、衣料品の重衣料販売への期待があるが、品ぞろえ計画変更等の要因もあり、客単価が前年比96.4%と減少している。	
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・販売量は、9月は前年比0.4%減であったが、今月の見通しは同0.2%である。競合店2店では、1つが9月は前年比4.7%増で、今月は同約3%減である。もう1店も9月が前年比3.6%増であったが、今月は若干下がっている。ただ、衣料品は紳士、婦人共に前年実績を上回っており、気温に左右されている。お歳暮が前年比7%減と12月は特に良くなかったのが、全体を押し下げている原因になっている。1品単価、客単価については前年実績を上回っている。	
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・景気に対する不透明感があり、総選挙の結果に対する期待感もなく、客の買い控えにつながっている。	
百貨店（営業政策担当）	来客数の動き	・12月は11月の急激な気温低下により、冬物衣料や防寒雑貨が好調だったことの反動減に加え、クリスマスや歳末商戦中の総選挙があり、例年と比較して盛り上がりには欠けた。	
スーパー（経営者）	単価の動き	・総選挙等の影響で客も先行きが不透明であり、買い控えがある。	
スーパー（店長）	単価の動き	・生鮮食料品の野菜が少し苦戦しており、前年比7%減で推移している。一般食品はケーキの予約や店独自の商品展開でカバーしている状況で、11、12月と変わらない流れで推移している。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・年末商品の動き自体があまり良くなく、ギフト商品の売行きも良くない。買上単価も落ちており、景気は悪くなっている。	
コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が減り、売上に影響がある。特にたばこの需要が減っている。	
衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当地においては中心商店街にある百貨店の退店による商店街の集客力の減退が日に日に強くなっている。来街者数は非常に減っており、結果として当店への来客数も減っている。	
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・寒波到来にもかかわらず、暖房機の動きが鈍く、客足が遠のいている。	
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車の販売台数が計画、前年比共に下回っている。エコカー補助金終了に伴う反動減が影響している。かなり厳しい状況である。	
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・新規部門での販売は先月に続き回復傾向だが、店舗での年末売出しは客足が伸びず、景気は良くない。	
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・12月は総選挙で客足がかなり悪くなり、そのまま年末に入り、客が増えない状況が続く。	
タクシー運転手	お客様の様子	・12月は忘年会のシーズンであるが、平日は少なかった。しかし金、土曜日になると結構にぎわっていた。今月は総選挙があったので、動きが悪いことは最初から分かっていたが、意外とそうでもなかった。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・昨年に比べ販売量が減少している。	
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・週末に悪天候が集中し、客の動きが鈍かった。また週間天気予報で雨や雪と予報されながら、直前に曇や晴れに変わるケースも多く、予約は週間予報次第で決まるといっても過言でなく、厳しい状況であった。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築住宅契約棟数が7～9月に比較して10～12月は13%減であった。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は歳末セールスの繁忙期に総選挙があったので、来客数、販売の動き、それから単価が非常に下がり、非常に悪い状況である。選挙が終わった後、回復するかと思われたが、悪い状況が続いている。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・売上は前年比4%減となった。今月については売上が一番伸びるクリスマスケーキが土、日、月曜日の3連休で会社関係の予約が大半取れなかった。生餅についてはほぼ前年並みとなった。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず来客数が伸びない。対策をいろいろしているが、効果が表れない。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客の来店が少なく、受注が極端に落ち込んでいる。
	居酒屋（経営者）	来客数の動き	・総選挙の影響が過去10年間で一番売上が見込めないような状況である。

		都市型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・宴会の出席数が少なくなっている。
企業 動向 関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月は年末特需で期待通り伸びている。特にスーパー関係の伸びが大きかった。加工メーカー筋の原料肉の引き合いもそこそこあり、12月単月の売上は過去最高になる見込みである。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月中旬過ぎから急激に受注が増えた。これは量販店が仕入れを控えていた結果である。売上は前年並みであるが、3か月前の売上から大きく減少している。また、商社が1件倒産し、その被害を今後被るので、景気はなかなか良くならない。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・海外からの受注で、受注量が増え、景気は上向きになっている。
		通信業（経理担当）	それ以外	・政権交代に伴い、客の動きも今後期待できる。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・政権が代わり、ムードが良くなりつつある。
変わらない		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・調味料関係の製造、販売を行っているが、年末に商材をそろえるという動きは例年と動きは変わらない。
		繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・先月同様、受注が少なく、苦勞している。特に正月休みが迫り、投入状況が悪くなる。生産工場にとって一番苦しい時期である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注額は前年並みであるが、10万円以下の小口受注件数がかかり減っている。全体の需要件数がマイナス傾向にあり、特に小口の需要は買い控えがある。消費者の財布のひもは固い。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・今年は年末の作業中止期間が28日からだったので、作業の進捗率が大幅上がった。市役所の第3四半期の発注は微増であったが、県の発注が激減した。同業者の中にはいまだに今年、公共工事を受注できていない業者もいるようだ。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きが全体的に悪くなっている。まだ在庫量も少なく、出荷されるものも少なくなっている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・取引先の状況をみると、太陽光発電が一段と裾野が広がってきているほか、携帯情報端末等の売行きも好調である。一方、自動車関連、電気機械の生産が減少しており、雇用面では引き続き厳しい状況が続いている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・株価が上がる等期待感はあるが、製造業等の実需に変わりはない。大手製造業の海外移転で受注は厳しい。大手企業は資金繰りが悪化した下請けを支援する等、資金繰りがひっ迫している企業も多い。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業において建設関係の受注量は、消費税増税前の駆け込み需要により、増加している。ただ製造業、小売業は消費の低迷により、業績は悪化傾向にある。総じて変わらない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・足元の資金需要は、住宅関連事業や太陽光発電事業、サービス付き高齢者向け住宅関連を中心に一定のニーズがあるため、方向感としては変化はない。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・観光産業に依存した企業が数多くある地域であるが、年末年始に向けてどの宿泊施設もほぼ満室という声が聞かれた。曜日配列が良かったことが大きな要因である。金融機関の借り入れも実需が伴った申込は依然として少なく、金融機関同士の競合がますます激化している状況に変わらない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・昨年から今年にかけて、状況は全く変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注件数や金額に大きな変動はみられない。
やや悪くなっている		農林水産業（従業員）	それ以外	・酪農関係の販売は、特に生産面で餌代が上がっており、補てんはできるものの、厳しい状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーの動きが非常に悪い。考えられる原因は2つで、中国の問題と円高の問題で輸出量が減少している点である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は減少しており、かろうじてスマートフォン関連に動きがあるのみである。

		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・総選挙があり、荷物の動きが悪くなっている。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が全く止まってしまった。先の見通しが立たない。こういうことは過去になかったことで、どうしようもない混乱の状態となっている。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・市町村等の地方自治体は、通常であれば12月に今年度業務について補正予算を組んで、いくらかの調査、計画等の委託業務を発注するが、今年は、その動きが少ない。今年度は受注する仕事がないのかという状況である。
雇用関連	良くなっている	—	—	—
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人の依頼が堅調であり、底堅い。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・単発、短期だけでなく、長期の注文も増えている。年末のみの求人も例年になく多い月だった。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・昨年度の求人件数は前年度を若干上回ったが、今年度の求人件数は、現段階で前年度を更に上回っている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・年末の挨拶で数社より採用の継続、一部増員の話があった。欠員求人も含まれているが、ステップアップの転職も少なからずあり、良い意味での人の移動が始まりだした。
変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比べて変わらない。また、前年と比べても大きな変化はない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の取扱件数の伸びが鈍化している。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き	・求人広告が回復基調にない。	
	職業安定所（所長）	雇用形態の様子	・製造業全般に雇用調整の動きがみられる。宿泊業も依然苦戦している。求人数は増加しているが、内訳はパートや臨時といった正社員以外である。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・本年4月以降上昇傾向にあった有効求人倍率は、このところ頭打ちになっている。また、管内企業の採用意欲はあまりない。	
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・労働者派遣法改正により、日雇い派遣が原則禁止となった影響か、単発の依頼が減少傾向にある。2か月以上の継続的業務は横ばい状況である。	
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・多くの業界で市場が縮小傾向にあり、なかなか企業活動の発展が見込めないため、雇用拡大には向かっていない。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者は、雇用調整による大量離職もあり、前年同月比で15.5%の大幅増加となった。	
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・県内の造船業が軒並み人員整理を始めている。往年の技術者は職を失い、技術を生かせない職業へと転換を強いられる。韓国、中国等の造船業界からは引く手あまたであるが、地元志向が強く、海外雇用にまではいかない。造船が落ちると鉄鋼が落ち、公共事業も新規建設から保守点検へとシフトするためますます鉄鋼需要が落ち込む。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・医療関連、教育、塾についての求人以外は全般として低調な状況が続いている。改善もみられない。	
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数が前年比30%の減少である。	